

第1回長井市第3次食育推進計画策定推進委員会

【日時】2023/10/16 13:30～15:30

【場所】庁議室

【出席者】

◆委員：小野卓也委員、鈴木よう子委員、横山小市委員、井上恵委員、菅野春平委員、伊藤浩呉委員、安部香織委員、佐藤朋江委員、尾形良一委員、坂本晃一委員、宇都久美子委員

◆事務局：健康スポーツ課安江栄養士、福祉あんしん課安達補佐、子育て推進課佐藤係長、給食共同調理場安倍補佐、地域づくり推進課吉川補佐、消費生活センター嘉藤相談員
農林課 梅津課長、石塚補佐、小林係長、丸山

【議事録】

1 開会 進行：農林課 石塚補佐

2 委嘱状交付

副市長から委員11名へ代理委嘱（中川委員欠席）

3 副市長あいさつ

長井市では、食育基本法第18条に基づき、平成26年3月に長井市食育推進計画を策定し、食育推進に取り組んできた。この間、関係機関、関係団体と連携を図らせていただきながら幅広い分野で様々な活動を展開してきたが、若い世代を中心とした食育や食文化の継承など、依然として食に関わる課題は数多くある。今年度は計画が最終年度となることから、これまでの評価を行うとともに、課題を整理し、さらなる食育の推進を目指すことを目的として、第3次長井市食育推進計画を策定したいと考えている。

食は命の源であり、私たち人間が生きていくためには欠かせないものである。長井市民がより食に関心を持ち、心身ともに健康で生き生きと幸せに暮らしていけるよう、委員の皆様にはぜひそれぞれの立場からのご助言を頂戴し、計画に反映させていければと考えている。貴重なご意見を賜りますようお願いいたします。

4 策定委員会設置規定について

資料に基づき事務局長より説明を行う。

5 委員及び事務局員の紹介

事務局長より委員の紹介を行う。

6 委員長・副委員長選出

委員より「事務局一任」と声をいただき、事務局長より事務局案を提示。

委員長に小野卓也委員、副委員長に鈴木よう子委員を選出して委員の了承を得る。

7 委員長あいさつ

今年度はいろんな計画が策定中である。教育振興基本計画や男女参画などの計画に関わら

せていただいているがその前の計画がどういうものであったのかよくわかっていない。食育のプロというわけでもないので農業や調理に関わっている方のほうがよく分かっているし、ここで発言すべきことがあるかと思うので交通整理役として進めていきたい。

(副市長所用により退席)

8 協議 議長：小野卓也委員長

協議に入る前に事務局より本日の議事録を作成し、ホームページ等で公開させていただき旨を説明し了承を得る。

(1) 第3次長井市食育推進計画策定について・・・事務局より説明

- ① 第2次食育推進計画について
- ② 策定委員会について（進め方、役割など）

【質疑・意見等】

○議長

今の役職の人が変わるという場合、委員が自分ではなくなるが、次の方がここに来ることになるという理解でよろしいか。

○事務局

はい。

○議長

もし役員が変わられるときは次の方に引継ぎをして話をしていただきたい。

(2) 食における現状・課題について・・・事務局より説明

- ① 現計画の目標に対する現状・課題について
- ② これまでの食育・地産地消の取組について
- ③ 数値目標に対する最新値について
- ④ アンケートの結果について

資料に基づき①～④まで事務局より説明

【質疑・意見等】

○委員

食育は食べ物を楽しまなきゃ何も生まれないということを一番に感じている。見て食べても、これがおいしいと思いながら食べるのと、ただ黙々と食べるのでは体に入る量も違ってくるので、あくまでも食は楽しむために、その次に、健康であるためときた方がいいのではないだろうか。ただ、生産者の方の話を聞いてやはり食事や食べ物に感謝するというのが食育の基本であると感じた。

○委員

私は日中飯豊町の自然の家で仕事をしており、そこは泊まることもできるが、日中の食事の提供法として、今ちょうど焼きいもの時期で、学校の畑で作ったさつまいもを使って新聞紙で包んで焼いてそこで食べたり持ち帰って学校で食べている。春先になると日帰りで食材だけ提供して

カレーを作ったり冬はピザを作ったりするが、どちらかという利用が多いのは、川西町と米沢方面。長井からも来ていただけるが、作って食べてというのは市外の方。食育はどういう形ですかというのは別にしても長井市は食育に関して弱いと感じる。できればもう少しいろんな形で作ってみたり食べてみる機会を広められたらいい。

○委員

中学校で母親委員会の企画で小野料理教室の小野先生をお招きして、簡単に作れる肉料理と魚料理、一品ずつ教えていただいた。その料理に参加できる人は限られた20名だったが、時短でできるもので、例えば、子どもが野菜を食べてくれないことに対して、お肉と同じ分量のキャベツを入れればかさ増しになって野菜もこれだけ取れるというのを教えていただいた。そういうことを南中だけでなくほかにも広めてほしい。PTAの集まりもあるが、そういう中で広めたものを市でも持ち帰ってもらいたい。3世代で教えられるような世の中でないと。これを5年とかでやるというより長い目で見なければ。私たちが育たないと子供も育たないしその子どもも大人になっても育たない。

もう一つ違う場で、初めてこども食堂の手伝いをさせていただいた。いろんな食材を提供していただき、その場をNPO法人やボランティアの方が盛り上げてくださった。また農家の方が1年かけてこども食堂のために畑を作ってくださり、子どもたちがそこで芋掘り体験をさせていただいた。子どもはこんなに伸び伸びできるんだと思ったら、それを見守っているお父さん、お母さんも楽しそうだった。もっと広めたい企画があるのにもったいないと感じたのが正直。そういうことでもう少し市も協力してほしい。

○委員

まず、子どもを持つ親御さんが、学校給食に栄養面から依存している面が多い。食事に対する意識の高いお母さんとかに関しては自分であらゆることができるが、忙し過ぎて栄養や食事の方に考えが及ばなかったりするお母さんにしてみれば、もう忙しくてお腹を満たせばいいやという感じで提供してしまい、子どもの栄養がおろそかになる。そうなった場合は学校給食が助けてくれるからという感覚で子どもを学校に送り出しているお母さんが結構いると感じている。

そうであるならば、学校給食の食べ物をより充実していただくことを願いたい。給食を提供する事業者さんがつぶれているニュースがいろいろされているようだが、長井市はどうか心配。予算が決まっていて、ここまで抑えなければいけないという重圧を受けながら運営されているのであればそれは改善してほしいし、もう改善して心配ないのであれば、それを情報発信して安心させてほしい。年間予算が多分決まっていると思うが、補填できるのであれば、物価も変動しているので毎月リアルタイムで変動させて、栄養を取らせるためにこのぐらいは許容して追加で補填しようということも大いにやっていただいた方が、我々の子どもにはありがたいと思っている。

実際にそれができていないのであれば、調理場に食材を提供する業者さんや生産者さんがそれに対して圧迫を受けるわけになるので、学校給食に出したくないという感覚だって今後あり得る。

業者さんが物価高騰で食材の価格を上げなければいけないのであればそれに応じて、学校給食、市それぞれが話をした上で、もっと給食費を上げようという感覚を強く持っていただく。特に長井市のお母さん方にそれを情報発信していただきたい。

我々は農協青年部という団体に所属して、食育に関しては学校教育、学校と幼稚園と連携しながら話し合いを通じて、あれやしましょう、これやしましょうというのは15年ぐらいやってきた。直接関わりを持ってやってきたが、そこに市が入って市の要望とか市の職員さんが何かという話を一切聞いたことがない。今がスタートラインなのであればそれは仕方がないが、学校教育や食や農業について危機意識を以前から持っているのであれば、なぜもっと早く地元の学校と関

わりを持っている若い青年団体や協力隊の方など、学校等で食の教育をしている人たちと、話し合いを通じてもっとやりましょとしなかったのか、そこが不思議でならないし、今後はそういうことをしないのか疑問がある。

○委員

情報の共有がなっていないなあという感じを受けた。

私は食改から代表してきているので、今取り組んでいることを皆様にご報告させていただきたいと思う。

食生活改善推進協議会、食改は「私たちの健康は私たちの手で 伸ばそう健康寿命 つなごう郷土の食」のスローガンのもと、地域の健康づくり、食を通した食育ボランティア団体です。

「食べる事は生きる事の基本・健康で過ごすことの基本」を世代に応じた活動を展開している。今年度もコロナ過で始まったが、過去2年間で培ったことを活かし、伝達料理教室を再開した。地域の人々が集まって料理をし、一緒に食事をするのができ、「共食は食育の原点」であることを改めて感じる機会になった。

また、「全世代に広げよう健康長寿延伸プロジェクトでは、「若者」、「働き」、「高齢」世代を対象とした講習会、訪問活動を行い、長井市は働き世代を実施した。

参加者の意識の変化を把握するために、講習会の前後のアンケート調査も実施した。回答の結果からは全ての世代において、「内容が役立つ」「実践できそう」「内容を人に伝えたい」という回答が概ね9割を占め、意識の変化を感じ取ることができた。さらに、事業活動を通して、食生活改善の推進と食環境の整備に取り組んだ。

また、令和3年に「第4次食育推進基本計画」が発表され、新たな目標に「郷土料理や伝統料理を月1回以上、食べている国民の割合」が追加された。

地域に伝わる郷土料理や食文化を伝えることを目的に、次世代への継承として、子どもと保護者が一緒に郷土料理を作る体験学習などを親子食育教室・各小学校家庭科授業の中でやPTAと提携しながら、小学校・中学校・高校への出前講座で伝えていきたいと思っている。

○委員

男女共同参画の方でも、男性の家事育児への参画ということは非常に重視しているが、平均寿命で女性の方が、男性よりも7歳長いのはなぜかというところを考えてきたときに、健康に対する、特に食生活に対する意識の高さ低さが関わっているのではないか。極端に言えば、女性が家で子どもと同じご飯を食べているときに、男性が外で酒を飲みながらつまみを食べている。どちらが長生きしますかということ。長生きしたければご飯を作るべき。

○委員

いただいた資料は素晴らしい分析をしている。現状と課題それから各課の取り組み、これらがこういう繋がりのもとでやっているのだということをはじめて今日わかった。私たち個人にとっては市報だとか、回覧だとか、そういうもので短編的にしか情報を得ることができない。食育推進計画の中で、一つに繋がっているということがわかり、今日は驚いた。いろんなことを横につなげてやっていかなければなかなか理解することができない。食育というのは、最終的には健康寿命を延ばしてそれから平均寿命を延ばす、それが目的じゃないかなと考えている。

○委員

私が考える食育の基本というのは、家庭の中に第1にあるということ。一般的に家庭の中にあ

ると言っても、男性の方が食育に対する意識が低かったり、また20代、30代子育て世代の意識が低いというのが現状問題としてあるので、その働きかけがいかにかにできるかによって今後大きく改善できる。その中に、学校機関や行政機関の支援であったり、援助というものがある。資料の各関係部署の様々な取り組みを読ませていただいたが、一つ一つの行っている事業政策が独立していて情報の共有ができていないのかなという感じを受けた。今後はその横の繋がりを強化したり、連携を図りながら行うことで、1個できていたことが、より広くそして深くできていくのではないかと。

○委員

学校給食で地産地消の給食が出たときに、幼児にこれはどこで作られたんだよって言っても多分わからない。地産地消に関して、例えばもし芋煮会ができるのであれば、調理場の方で作っていただいてそれを運動会ないし、何かイベントの時に親子で食して、それが長井市で作られたものだよってという親子の会話があったら、幼児でもちょっとわかるかな。親子で一緒に食べることが大事。こういうイベントもあったということが小さいころの思い出となって繋がっていけばいい。長井市の方には負担がかかってしまうということもあるが、親子で懇親の場を広げて生産者に感謝するイベントができるのではないかと思った。

○委員

私は平成6年に長井市の給食調理場に来て、20年間長井にいた。もうその時には平成10年からレインボープランの野菜を使い、バイキング給食を始めて、途中からまるごと長井給食をしたり、地産地消の取組もしていた。異動になって7年間外にいてまた戻ってきたが、今までまるごと長井給食や地産地消、バイキング給食をそれぞれなんの気もなしで普通に行っていたことが長井市食育推進計画の中の事業に入っていた。調理場にいながらにしても教えてもらわないとわからない。ただ調理場の事業でやっていると思っていたので、異動してきて初めは無我夢中でやってきたが、2年目でやっと気づいたというくらいである。横の繋がりが薄いのかなとも思いながら、自分でもやるべきことだけただやってきてしまったことを反省している。先ほど委員がおっしゃったことに私も同意するが、地産地消といっても、月1回の地産地消の日は無理して作っている。残念ながら、にんにくや青葉とかその程度しか入らない。今度のまるごと長井給食も重ねて打ち合わせをして計画をして今回は牛すき丼にしようとなったが、猛暑の影響で白菜が納入できなくなったとの連絡を最近受けた。1人70gで試算200kgぐらいの白菜が長井市で納められない。農林課で菜なポートと調理場のかけ橋で職員を頼んでいるのもありがたいよく調整していただいているが、生産者がいない中1人で食材を集めてくださるご苦労がわかっているので、なかなか1人で調整するのは難しいのではないかと考えている。今回の白菜に関してもだが、今まで何度もそういうことがあった。20年ぐらい前から調理場と農林課の方から、1年間で何が何kg何を何t使うのかよく聞かれ、その度に答えた。何か策を練ってくれるのだろうなど期待をしてもいまだにこの現状。どんどん少なくなって、平成10年～15年ぐらいが一番地元産を使えたんじゃないかと思う。今はもう地産地消とは正直恥ずかしくて言えないくらいである。もう少し生産してくれる人がいるのか、私たちもわからないのでその辺の情報も市役所としてそれぞれ横の繋がりで話し合いの場を設けるなりして、もう少し進んでほしい。

○委員

目標に向かって各課がそれぞれすごく良いことをやっていて課題も見つけて取り組んでいるが、やっぱり単独で繋がってないのかなというのが皆さんの意見を聞きながら私も同じことを考えた。

私自身子育てしながら働いているの困りごとがあり、ある程度「食べる」ことの重要性はみんなすごくわかっているが、食べることは時間もかかるしお金もかかって、栄養面が大切なことはわかっているけど今日の夜はうどんです済まそうかという状況になっている。何かお惣菜を売っているところがないかなと思いつながら、肉魚なら何とかできるけど何かおひたし売ってないかなと思うことがすごくあったりする。仕事で高齢者に低栄養改善に向けてお話して下さいと言われるが、高齢でお金もなく買い物にも行けなくて作ることもできない人に強制することができないので、そういう福祉の面でも課題があり難しいと感じている。

まず問題を拾い出し、その課題に向かって目標を定めていかなければいけない。また、せっかくこの計画で良い取り組みをしているのに市民が誰もわかっていないので見える化していけたらいい。まずは課題の拾い上げをしてその課題解決に向けて、各課でどういう取り組みをするのか、課題が一緒であれば横の繋がりも出てくると思う。

あとは日頃仕事をしていて痛切に感じることは、納入業者が少ないこと。今は青果物を納めてくれるところが中央青果さんしかなくて、肉屋さんもそろそろ後継ぎもどうなのかというところもあるし、牛乳屋さんもう1社だけになったりしているので、生産者の方を守る取り組みをしていただきたい。

○議長

皆さんから大変貴重なご意見を頂戴でき、それぞれの立場からのアイディアが出されたと思うので、これを今後の計画の中に生かしていただきたい。

(3) その他

意見なし

9 その他

次回委員会日程について

令和5年12月上旬予定

給食試食会あり

場所：学校給食共同調理場

10 閉会

以上